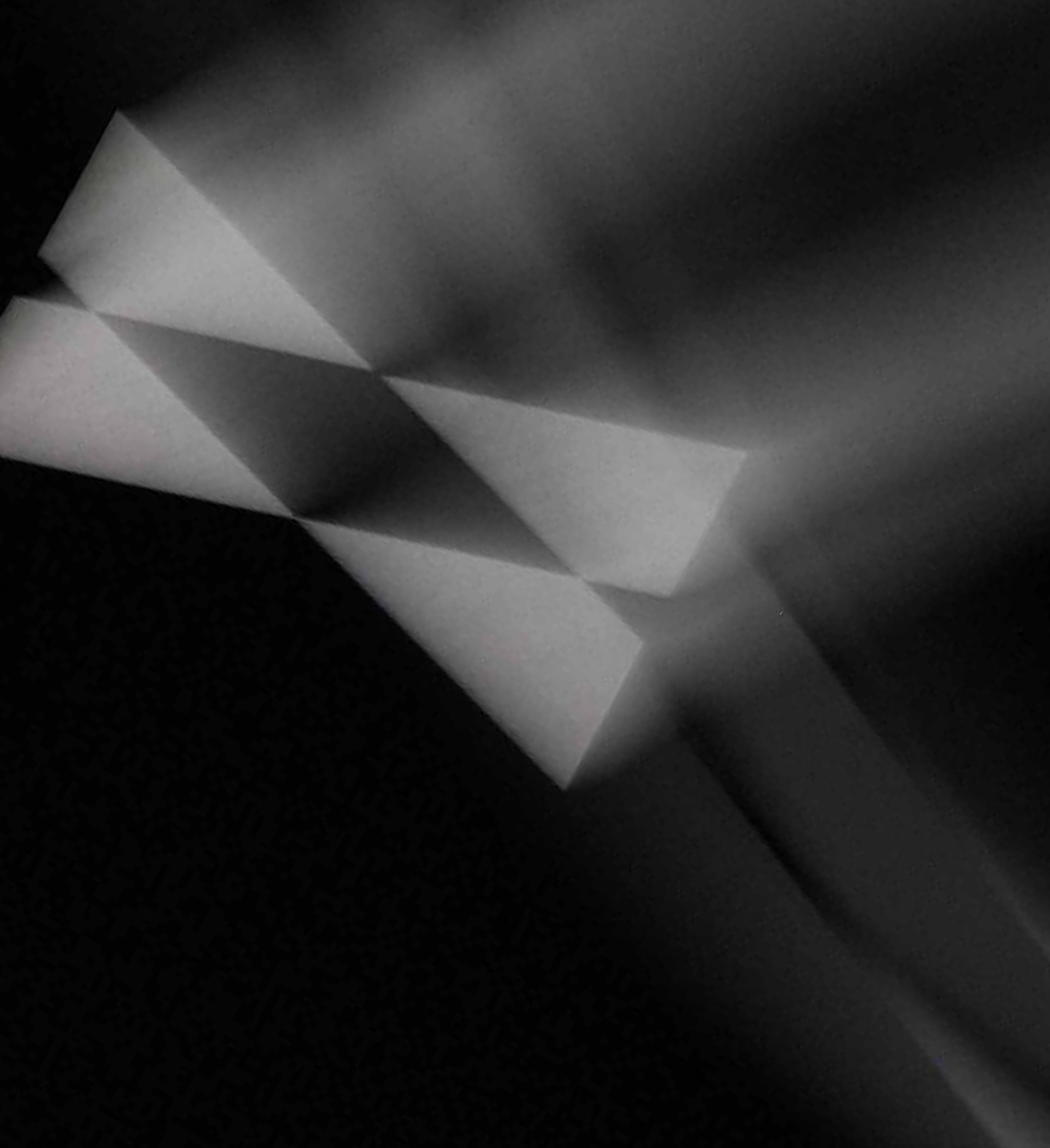
NOBODY KNOWS

2021年度



そこでしか出会えない、
まだ誰も知らない日本がある。

その暮らしに触れると、見えてくることがある。
その歴史や人のつながりを知ると、わかることがある。
その場所でしか、感じられないことがある。

NOBODY KNOWS.
それは、日本遺産を舞台にした伝統芸能プロジェクト。

文化や芸術を「根づく」と表現するこの国だから
それぞれの地域で受け継がれてきた芸能を
切り花のように鑑賞するのではなく
その根を張っている場所で、観てほしい。

地元に伝わってきた芸能と
音楽や舞踊などプロの芸能を交差させることで
ライブを、楽しさと発見に満ちたものに。
さらには、地域の人に出会い
歴史や風土、暮らしや技に触れる体験も。

どんなものにもアクセスできるこの時代に
そこでしか、出会うことができないものがある。
さあ、誰も知らない、日本を見つけにいこう。

石川県・小松市

小松の〈石〉と〈海運〉の文化が織りなす
悠久の時間

うつりゆく季（とき）

花鳥風月

祈

弥生の世より碧玉を産んだ地
厳かな祈りの場であった那谷寺
そのいにしえに想いを馳せて

花

那谷寺と名づけたのは

北陸を旅した花山法皇

平安時代の御幸を思い起こさせる

典雅な笛と鼓の音

風

海運の要 安宅
江戸・明治期には北前船が寄港し
多くの産物や石材
そして九谷焼をのせて
小松の石文化は世界へ

棒振り：獅子頭に立ち向かう棒振りの演舞
安宅宮獅子保存会の型を尾上右近が披露

安宅宮獅子：武具をもって獅子を討ち取る「獅子退治」の演舞を特徴とする「加賀獅子舞」の系譜
三段まわし：刀と鎖鎌を手に戦う演舞は安宅宮獅子保存会による現代版

月

戦国時代の焼け跡から

現在の那谷寺を再建した前田利常

晩年を過ごした書院で

月明かりの中　利常公を偲ぶ

鳥

うつりゆく季の中

毎冬 小松に飛来するコハクチョウ

過去から今へ

そして未来へと羽ばたく

出演

尾上右近（舞踊・語り）

清元宗家七代目 清元延寿太夫の次男、曾祖父は六代目尾上菊五郎。7 歳で歌舞伎座『舞鶴雪月花』の松虫で初舞台。12 歳で新橋演舞場「人情噺文七元結」の長兵衛娘お久役ほかで、二代目尾上右近を襲名。2018 年 1 月清元栄寿太夫を襲名。同年より NHK ラジオ「KABUKI TUNE」パーソナリティとして歌舞伎をはじめ伝統芸能の魅力を発信。

木場大輔（胡弓）

淡路島出身。古典胡弓を学ぶ一方で文楽、風の盆、尾張万歳など日本各地に伝わる胡弓の奏法を研究。 演奏法や低音域を拡張した四絃胡弓の開発、作曲など、胡弓の伝統に新たな光を当てている。 胡弓と箏やピアノとのユニット活動の他、胡弓と世界の擦弦楽器による「異文化弦楽団」を主宰するなど、幅広く活動している。NHK ワールド「Blends」出演。

藤舎推峰（篠笛・能管）

藤舎流分家笛家元の祖父、藤舎秀蓬、伯父の藤舎名生、父の中川善雄に師事し、2004 年「推峰」を襲名。 東京藝術大学・大学院在学中に浄観賞、同声会新人賞、アカンサス賞を受賞。国立劇場主催公演や NHK「にっぽんの芸能」など、演奏会、放送に多数出演し、海外公演にも参加。 古典芸能の活動の他、ポップスアーティストの公演、レコーディング等にも参加。令和 2-3 年度文化庁文化交流使。

望月左太助（邦楽囃子）

幼少期より和太鼓をはじめ、2019 年、東京藝術大学邦楽科邦楽囃子専攻卒業。在学中、稀音家浄観賞、安宅賞、アカンサス音楽賞を受賞。「平成中村座スペイン公演」「野村萬斎主演 現代能安倍晴明」はじめ国内外の公演で囃子方として活動する一方、NHK 大河ドラマ「直虎」やピタゴラスイッチにも鳴物で出演。

安宅宮獅子保存会

勇壮な棒振りなど、武具をもって獅子を討ち取る「獅子退治」の演舞を特徴とする「加賀獅子舞」の系譜の獅子舞。 1979 年に青年団の再結成とともに復活したが、町内の家々への巡業の負担は大きく、人手不足と道具等の老朽化により、その後存続の危機に陥る。 1989 年に現在の安宅宮獅子保存会が発足し、青年団 OB を中心に運営している。

構成・振付

花柳源九郎

奈良県出身。華やかで力強い芸風が持ち味で、古典の舞踊を基盤に数々の公演で活躍。 文部科学大臣奨励賞、舞踊批評家協会新人賞等受賞。振付助手として比叡山薪歌舞伎、蜷川幸雄演出作品、宝塚公演等にも参加。「NOBODY KNOWS」では日本遺産ストーリーを活かした舞台の構成・演出を行う。

映像監督

森崎和宏

石川県金沢市出身。2006 年より映像制作会社にてテレビ番組や CM などの制作を行う。 2012 年独立後、CENDO Inc. に参画。CM やプロモーションビデオなど、様々なジャンルの映像制作を行なっている。

NOBODY KNOWS
2021年度

「NOBODY KNOWS」は、伝統芸能の視点から 日本全国の〈日本遺産〉※1と地域文化の魅力を再発見し、観光につなげるプロジェクトです。
2019年度は「自然と技」「自然と祈り」をテーマに6箇所でツアープランを企画・実施。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上で、地域の歴史文化と伝統芸能ライブを楽しめるオンラインプログラムを配信しました。
そして3年目となる2021年度は、コロナ禍で多くの課題と直面した「旅・観光」そして「伝統芸能」という2業界に新たな事業可能性を模索すべく、各地の文化資産の掘り起こしと、現地来訪に繋げるためのプログラム開発に挑戦しました。
新規の3地域（平泉、小松、徳島・石井）では、日本遺産となっている地域の歴史文化・芸能にスポットをあてた映像を制作。継続の2地域（伊勢原、薩摩川内）では、地域のコンテンツを活かした公演とあわせ日本人・外国人を対象にしたツアーを実施しました。

「NOBODY KNOWS」は令和3年度日本博※2主催・共催型プロジェクトとして、
文化庁と独立行政法人日本芸術文化振興会、
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）が主催する事業です。

※1　日本遺産…全国各地の歴史や魅力を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定する 文化庁による取り組み。ストーリーに関係する各地の有形・無形の文化財群をパッケージ化し、地域活性や観光振興へ活かすことを目的とする。2020年時点で104箇所が認定されている。

※2 日本博 事業…2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成や訪日外国人観光客の拡大等を見据え、我が国の文化芸術の振興と、その多様かつ普遍的な魅力を発信するため、日本全国を舞台に展開される事業。

石川県 小松

石と海運の文化をテーマとした特別映像「うつりゆく季（とき）～花鳥風月～」

石川県小松市で日本遺産に認定されている2つのストーリー「珠玉と歩む小松～時の流れの中で磨き上げられた石の文化」「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」から、現地の石と海運の文化を着想元とした特別映像を公開しました。
小松の四季と花鳥風月のモチーフを重ね、那谷寺の境内で時を刻んだ美しい自然、建築物を舞台に春・秋・冬を表現。日本舞踊と胡弓、笛（篠笛・能管）、邦楽囃子の情感あふれる音楽によって、現地の豊かな文化資産に新たな光をあてました。
夏の舞台となった安宅は、陸海運の要所で北前船の寄港地として栄え、歌舞伎『勧進帳』で関所として登場する名所。夕陽に染まる安宅海岸で、安宅宮獅子に伝わる獅子退治の棒振り役を歌舞伎俳優 尾上右近が演じました。
なお、映像は2021年11月13と14日に行われた「日本遺産サミット in 小松｜日本遺産で輝く！ 地域と人とものづくり」（石川県こまつ芸術劇場うらら、サイエンスヒルズ小松3Dシアターにて）でのお披露目を皮切りに、2月には「日本遺産の日」関連イベントでも上映。また、小松市内のデジタルサイネージでの掲出により多くの方に視聴されています。

〈ポイント〉

- 小松ならではの地質が生み出した石材や九谷焼、今も日常を彩る豊かな文化資源を織り込んでいる
- 小松各地に伝わる獅子舞団体より安宅宮獅子保存会の協力を得て、歌舞伎俳優と共演
- 小松にも工場を構える世界有数の繊維企業・サンコロナ小田株式会社の織物「オーガンザ」を使い、現地の芸能や工芸に限らぬ文化資源まで活用した演出

〈YouTube 公開（無料）〉

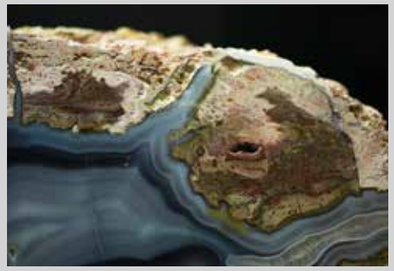
2021年11月15日～ 2022年3月31日

〈撮影場所〉

那谷寺、安宅住吉神社、安宅海岸 等

〈出演・スタッフ〉

舞踊・語り：尾上右近　胡弓：木場大輔
篠笛・能管：藤舎推峰　邦楽囃子：望月左太助
地域芸能：安宅宮獅子保存会
構成・振付：花柳源九郎　映像監督：森崎和宏



主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
共催：小松市　後援：環境省　協力：那谷寺、安宅住吉神社、安宅宮獅子保存会、九谷セラミック・ラボラトリー、石材 荒谷商店、東酒造株式会社、小松市立博物館、小松市埋蔵文化財センター、公益社団法人日本舞踊協会
美術協力：サンコロナ小田株式会社　映像プロダクション：株式会社アビックスタジオ金沢
音響：石丸組　音楽録音：株式会社アバコスタジオ　映像プロデュース：ドローイングアンドマニュアル株式会社
写真撮影：高橋俊充、山田雅也　企画協力：縦糸横糸合同会社　広報協力：三声舎
コミュニケーションデザイン：株式会社Que　デザイン：株式会社ガーデン　Web制作：株式会社テオ

岩手県 平泉

“源義経”をテーマにしたクロストーク「芸能とたどる源義経 ― 南部神楽・能楽・日本舞踊」

日本遺産・世界遺産でもある岩手県・平泉町の中尊寺本堂を舞台に、“源義経”をテーマにしたクロストーク「芸能とたどる源義経―南部神楽・能楽・日本舞踊」のオンライン配信を実施しました。
源義経は、平泉の奥州藤原氏の庇護を受け、兄・源頼朝の平氏討伐で武功を上げますが、その後頼朝と対立し、平泉の地に追われて最期を遂げたとされています。義経のこの数奇な運命は、平泉町で例年ゴールデンウィークに開催される「春の藤原まつり」で「東下り行列」として残されるばかりか、能や歌舞伎・日本舞踊などの演目となって今なお数多く上演されています。
そして地域一帯に伝わる南部神楽においても、源義経は欠かすことができない主題です。今回のクロストークでは、南部神楽の一つ「牧澤神楽」の吉田聖樹さんと阿部大樹さん、中尊寺に縁の深い喜多流能楽師の佐々木多門さん、そして日本舞踊家の花柳源九郎さんをゲストに迎え、それぞれの演目に登場する“源義経”について、実演を交えながら語り合いました。進行は、民謡をはじめ地域の芸能への関心が高い津軽三味線奏者の浅野祥さん。芸能を通じて、源義経の平泉への足跡と、義経像の表現の豊かさを紐解きました。
また、地域芸能を活かした観光コンテンツ開発の一環として、「平泉・一関地域の『神楽』体験ワークショップ」を開催。達谷窟毘沙門神楽、蓬田神楽、牧澤神楽といったそれぞれの南部神楽の団体の特色を活かし、装束・面や太鼓の体験、神楽で使う道具作りのワークショップを実施しました。（日程：12/4・5 会場：骨寺村荘園交流館「風のシアター」、骨寺荘園交流館休憩所「古曲田家」）

〈ポイント〉

- 「源義経と地域芸能」をテーマにした観光ツアー企画への展開を念頭に、映像制作および南部神楽のワークショップを実施
- 南部神楽ワークショップでは、WORLD TAIKO CONFERENCE実行委員会の協力により、各団体に外国人の視点もふまえたフィードバックを行う
- 地域芸能に関心の高い外国人へのPRのため、WORLD TAIKO CONFERENCE実行委員会インスタグラムで英語によるタイアップ投稿を実施

〈YouTube 公開（無料）〉
2021年10月1日（金）～ 2022年3月31日（木）

〈撮影場所〉
中尊寺本堂

〈出演〉
吉田聖樹・阿部大樹（牧澤神楽）　佐々木多門（喜多流能楽師）
花柳源九郎（日本舞踊家）　進行：浅野祥（津軽三味線奏者）

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
後援：環境省、日本遺産「みちのくGOLD浪漫」推進協議会、平泉町、平泉観光協会、一関市
協力：中尊寺、骨寺村荘園交流館　企画協力：世界遺産平泉・一関DMO、合同会社ひらいずむ、WORLD TAIKO CONFERENCE実行委員会、縦糸横糸合同会社
映像編集：縦糸横糸合同会社　映像撮影：有限会社CAP　写真撮影：山田雅也
協力：公益社団法人日本舞踊協会、公益社団法人能楽協会　広報協力：三声舎
コミュニケーションデザイン：株式会社Que　デザイン：株式会社ガーデン　Web制作：株式会社テオ

徳島県 石井町

藍が育てた徳島の芸能がつまった特別映像「人形師天狗久～阿波木偶箱まわし、面劇、阿波人形浄瑠璃～」

日本遺産「藍のふるさと 阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～」より、人形師・天狗久と阿波の芸能にスポットを当てた特別映像を制作。藍商の繁栄を通して花開いた徳島ならではの人形文化と、その立役者となった作家の魂を伝えます。
16世紀末に淡路で生まれたとされる人形浄瑠璃は、1615年、淡路を加増された阿波国主により保護・奨励され、徳島に広まっていきました。明治時代には、徳島に70以上の人形座があり、地元の祭礼や農村舞台などでも上演。現在も愛好団体が多く存在し、定期的に上演されています。
人形浄瑠璃に欠かせない人形師の筆頭が、初代・天狗久（吉岡屋久吉）。 明治20年代に、人形の頭の大型化や硝子目の採用など舞台で映える頭を工夫し、1943（昭和18）年、86歳で亡くなるまで、生涯で千を超える頭を手掛けたと言われています。
今回制作した映像では大駱駝艦主宰・舞踏家で俳優の麿赤兒（まろ・あかじ）が天狗久を演じ、職人としての生き様や苦悩を舞踏の要素を活かして演出しています。
なお、2022年3月5日に#徳島ニューノーマル映画祭にて上映されるほか、阿波十郎兵衛屋敷でも上映予定。

〈ポイント〉

- 『宇野千代見聞集』より、作家の宇野千代が天狗久を訪れたときのエピソードをベースに台詞・語りを構成
- 石井町出身の花之家花奴がはじめた1代限りの「面劇」から演目『奥州安達ケ原』の一部を、石井町の文化財に指定されている貴重な資料を使用して復活上演
- 藍の生産に必要な藍床を敷地内に持つ“藍屋敷”・武知家住宅（石井町）で、良質な藁（すくも）への祈りを込めた門付の祝福芸・阿波木偶「三番叟まわし」を収録

〈YouTube 公開（無料）〉
2022年3月6日（日）～ 3月31日（木）

〈撮影場所〉
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷、徳島市天狗久資料館、武知家住宅（国重要文化財）等

〈出演・スタッフ〉
天狗久：麿赤兒　語り：高泉淳子
阿波木偶「三番叟まわし」：阿波木偶箱まわし保存会　面劇：藤間直三
阿波人形浄瑠璃：勝浦座　太夫：竹本友和嘉太夫、竹本友廣
三味線：鶴澤友勇、鶴澤友輔　音楽：竹花加奈子
台本・演出：鈴木英一　構成・演出：花柳源九郎　映画監督：栂岡圭太郎

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
後援：環境省、石井町　協力：徳島県、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷、徳島市天狗久資料館、特定非営利活動法人阿波農村舞台の会、Watanabe's、キャメルアーツ株式会社／大駱駝艦、有限会社遊機械オフィス、公益社団法人日本舞踊協会　映像制作：株式会社オリジナル
写真撮影：坂口祐、南東茂樹　企画協力：縦糸横糸合同会社　広報協力：三声舎
コミュニケーションデザイン：株式会社Que　デザイン：株式会社ガーデン　Web制作：株式会社テオ

神奈川県 伊勢原

古くからの信仰の地、大山で祭礼とともに育まれた文化・芸能を体験する実演つき大山詣りツアー

日本遺産「江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで『大山詣り』～」の世界を、登拝と芸能の2つの視点で楽しめるツアーを実施しました。
江戸時代に流行した「大山詣り」を体験するツアーとして、新宿駅から特急ロマンスカーを貸切って伊勢原へ。案内役は、大山にゆかりのある落語家・金原亭馬玉師匠。車両内やバス内で現地ガイドと一緒に歴史や文化を楽しく深堀りしました。大山に着くと宿坊で行衣をまとって礼拝を受け、大山寺を拝観し大山阿夫利神社下社へ向かう往路からスタート。
大山阿夫利神社下社に到着したら、名物の大山とうふを使った「湯どうふ膳」を食して拝殿での「正式参拝」へ。神楽（倭舞・やまとまい）の奉納とともにお祓いを受けた後は、馬玉師匠による落語「大山詣り」を堪能しました。最後は、同神社の能舞台にて能の所作や衣装の着付けまで体験できる盛りだくさんの日帰りツアーでした。
なお、その翌日には外国人向けツアーとして「Pilgrimage Experience and Shamisen Concert」を実施。通訳ガイドによる山登りを午前中のオプションとし、お昼に大山阿夫利神社下社に集合して昼食からスタート。正式参拝後は、江戸時代に花開いた三味線音楽を鑑賞しました（演奏：杵屋勝十朗）。復路で大山寺を拝観して、能舞台で能体験を行うプログラムでした。

〈ポイント〉

- ガイド付きのツアーで「大山詣り」の歴史と地域で受け継がれている芸能文化を体感できるプログラムを提供
- 大山詣りや地域で受け継がれる芸能について、倭舞を披露した大山小学校の子供達へのインタビューを交えた映像を制作・YouTube公開
- 大山阿夫利神社の本格的な能舞台で、神社に伝わる能面の解説や衣装の着付けなどを体験

〈行程〉

8:50：集合 小田急線新宿駅西口地上「はこね旅市場」前 新宿駅
～〈特急ロマンスカー〉～ 伊勢原駅 ～〈貸切バス〉
～ 宿坊「山荘だいとう」～〈大山ケーブルカー〉～ 大山寺
～ *大山阿夫利神社下社（昼食「湯どうふ膳」、正式参拝・倭舞、プロの芸能鑑賞）
～ *大山阿夫利神社社務局・能楽殿（能体験）
～ 17:20頃：解散 伊勢原駅北口
＊外国人向け共通。（午前中オプション：女坂登山～見晴台ハイキング）

〈日時〉

2021年12月18日（土）8:50 ～ 17:20：日本人向けツアー（新宿駅集合）
19日（日）10:30 ～ 17:30：外国人向けツアー（伊勢原駅集合）※オプション8:30集合

プログラム主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
共催：大山阿夫利神社　後援：環境省、伊勢原市　協力：一般社団法人伊勢原市観光協会
旅行企画・実施：株式会社小田急トラベル／株式会社JTB神奈川西支店
企画協力：小田急電鉄株式会社、縦糸横糸合同会社
映像制作：縦糸横糸合同会社　写真撮影：山田雅也　広報協力：三声舎
コミュニケーションデザイン：株式会社Que　デザイン：株式会社ガーデン　Web制作：株式会社テオ

鹿児島県 薩摩川内

薩摩の武士が生きた町・入来麓で薩摩琵琶と地域芸能を継承する公演とバスツアー

江戸時代の薩摩藩で多くの武士が半農半士の生活を送った、武家屋敷群＝麓（ふもと）。当時その数100以上を超えたという麓ですが、日本遺産「薩摩武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く～」では12の麓（9市）によって構成・認定されています。
薩摩川内市の入来麓（いりきふもと）は、かつて多くの琵琶が製作され、名器が生まれた場所。伝統芸能の第一線で活躍する実演家が集い、この地でつくられた琵琶とともに現地の様々な芸能をめぐる公演を行いました。
かつて薩摩武士たちが奏でた天吹と薩摩琵琶の古曲や、現地の入来神舞の演目で現在では実演されることのなくなっていた『弓舞』を、日本舞踊とのコラボレーションで新演出。本公演にむけて、はじめて薩摩琵琶に触れた現地の子どもたちと奏でる『蓬莱山』では、実演家との共演もお届けしました。

〈ポイント〉

- 鹿児島市発着、入来麓地区のまち歩きと公演鑑賞のバスツアー（英語通訳付）を実施。
- 入来神舞『弓舞』は、現地に伝わる「入来神舞祭文集」の記述から一部台詞を抜粋し、現地の鬼神役と甲冑をつけた日本舞踊家、薩摩琵琶の音楽で新演出
- 入来の小中学生4名が約3ヶ月間、薩摩琵琶を稽古して出演。はじめての稽古からリハーサル・本番に臨んだ様子を映像制作・YouTube公開
- 10月25日、友吉鶴心が入来小学校（地頭仮屋跡）を訪問し、全校児童を対象に、地域に縁のある薩摩琵琶についてのお話と演奏を披露

〈日時〉

2021年11月6日（土）15:30 ～ 17:00

〈会場〉

旧増田家住宅 ※雨天のため入来小学校体育館にて開催

〈演目〉

武満徹『エクリプス』、薩摩琵琶古曲より『夢現』、『蓬莱山』、
入来神舞より『猿女舞』『十二人剣舞』『弓舞』

〈出演〉

入来神舞保存会：塚田咲季、宮田葵生、宮田裕也、山下昌仁、是枝政文、岩切正幸
薩摩琵琶：友吉鶴心、福元勇吹、福元柚希、古木達也、福元咲菜
尺八：藤原道山　邦楽囃子：田中傳一郎
日本舞踊：花柳源九郎　案内人：東川隆太郎（かごしま探検の会）

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
共催：薩摩川内市、薩摩川内市教育委員会　協賛：甲冑工房丸武
後援：環境省、鹿児島県教育委員会、日本遺産「薩摩の武士が生きた町」魅力発信推進協議会
協力：入来神舞保存会、入来麓伝統的建造物群保存地区保存会、入来麓伝建地区協議会、
清色地区コミュニティ協議会、入来文化協会、株式会社薩摩川内市観光物産協会、公益社団法人日本舞踊協会
舞台・会場運営：株式会社シイツウ　照明：ウルトラC　映像制作：株式会社HEIYA　写真撮影：山田雅也
企画協力：株式会社シイツウ、縦糸横糸合同会社　広報協力：三声舎
コミュニケーションデザイン：株式会社Que　デザイン：株式会社ガーデン　Web制作：株式会社テオ